

これからの食事療法と近い未来の透析療法



菅野義彦

東京医科大学腎臓内科学分野

1960年代にわが国でも人工透析が臨床応用され、腎不全の治療が大きく変わりました。1990年代に患者数も10万人を超え、安全な治療が経済的な負担もほとんどなく受けられるようになりました。またこの頃からは人工透析で単に生命を維持するだけでなく、薬剤の新規開発を中心に透析患者の生活の質を向上させるような方向に発展しました。かつては考えられなかった高齢者や合併症の多い患者も安全に透析を受けることができるようになったおかげで現在わが国の人工透析患者は30万人を超え、当初始めた血液透析療法はほぼ完成の域に達したと考えています。

腎不全には根本的な治療がないために逆に透析療法が発展したという考え方があります。教科書を見ても腎不全の治療は食事療法とありますが、他の領域に比べてよい治療がないために食事療法が残っている感があります。その原則は「出せないのだから食べちゃいけない」というもので、これは初期に効率の低い透析療法を受けていた透析患者にも引き継がれて今日に至っています。しかし初めて食事摂取基準が提唱された1997年と現在とでは透析患者の臨床像が全く異なり、高齢化が進んでいるためにこれまでの摂取制限を中心としたものと別の食事療法が必要とされています。また透析療法は腎不全死から人類を解放したものの、さまざまな進歩があつたにもかかわらず5年予後で見た成績はここ二十年ほど変わっていません。現在の透析療法はかなり完成されたものですが、その限界なのかもしれません。今後わが国の透析医療がどういう方向に進んでいくか、いくつかの可能性を考えています。

一つのキーワードは「透析患者をベッドから解放する」ということです。人工透析医療の黎明期から夢見られてきたことですが、近年のナノテクノロジーの進歩により、この夢に手が届くかもしれないところまで来ています。海外を含めて3つのグループがこれに取り組んでいますので紹介します。

氏名 菅野 義彦 かの よしひこ
現職 東京医科大学 腎臓内科学分野 主任教授

学歴

1991年3月 慶應義塾大学医学部卒業
1995年3月 慶應義塾大学大学院所定単位取得中途退学

学位：医学博士（甲種第1401号）（授与大学 慶應義塾大学） 1995年12月11日

「降圧療法の腎臓保護効果に関する研究—臨床病理学的検討—」

職歴

1995年4月 慶應義塾大学医学部助手（内科学）
1996年1月 George Washington University Medical Center 訪問研究員
1997年1月 National Institute of Health 訪問研究員
1998年4月 埼玉社会保険病院腎センター医員
1999年4月 埼玉医科大学腎臓内科助手
2003年10月 埼玉医科大学腎臓内科専任講師
2005年5月 埼玉医科大学医学部医学教育センター専任講師（腎臓内科兼任）
2010年2月 慶應義塾大学医学部血液浄化・透析

	センター 専任講師	日本高血圧学会特別正会員、評議員
2011年4月	慶應義塾大学医学部血液浄化透析センター 准教授	日本臨床栄養学会理事、学会誌編集委員など、日本病態栄養学会監事
2013年4月	東京医科大学病院腎臓内科 主任教授	日本人工臓器学会評議員
	現在に至る	免許・資格
学会における活動等		日本内科学会総合内科専門医、指導医、
日本内科学会評議員、関東地方会常任幹事会長、病歴要約評価委員、Internal Medicine 編集委員		日本腎臓学会認定専門医、指導医
日本腎臓学会幹事、評議員、腎臓病療養指導士創設委員会副委員長		日本透析医学会専門医、指導医
日本透析医学会評議員、学術委員、栄養問題検討WG 長など。		日本高血圧学会専門医、指導医
		日本感染症学会専門医、指導医
		日本移植学会移植認定医